

令和5年度  
事業計画書

令和5年 4月 1日から

令和6年 3月31日まで



公益財団法人

木原記念横浜生命科学振興財団

公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

## 基本方針

定款に定めた財団の目的である4つの柱に沿って、令和5年度は次のとおり事業計画を定め、取り組んでまいります。

**学術振興及び知識普及啓発**の取組としては、広く日本全国の若手研究者を候補とする『木原記念財団学術賞』を実施するとともに、長期的な視点に立って神奈川県内の小・中学生の科学の芽を育むため、『木原記念こども科学賞』を実施します。

当該両輪の賞をもって、木原均博士の志を汲み、一時の潮流・時流にとらわれることのない、息の長い、一貫した人材育成施策を実施します。

**共同研究開発等の企画及び推進**の取組としては、企業や大学が互いの強みやアイデアを活かした共同研究開発の企画・プロジェクト化を後押しし、開発を進めるうえでの課題となる資金獲得等を支援するとともに、自らも我が国の生命科学分野における役割期待に応えるべく、新たなプロジェクトの創出に向けて取り組みます。

**産業活性化の支援**の取組としては、横浜市が運営する『横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）』の中心的な支援機関として、横浜市内中小企業・スタートアップ等の製品や技術を発信するため、LIP. 横浜協力機関の社内にて、製品発表・プレゼンテーションを行う「社内展示会」を開催するなど、技術連携・ビジネス創出の機会を増やします。

クロスイノベーションカンファレンスでは、従来のネットワークに加え、新たな異分野大手企業を発掘することで、マッチング機会の創出を目指します。

また、ヘルスケア関連分野の中でも、デジタル技術を活用したデジタルヘルスケア産業の活性化支援活動をさらに強化します。

**産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置・管理運営**の取組としては、バイオベンチャー等の集積拠点である『横浜バイオ産業センター（YBIC）』について、監視盤の交換等、長期修繕計画に基づく計画的な修繕を実施し、研究開発の良好な環境を提供します。

以上4つの柱に沿った取組を実施し、神奈川県内、横浜市内を拠点とする生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与するよう尽力します。さらに、有識者を中心とした木原記念財団将来構想検討委員会において、今後の財団が取り組むべき方向性の検討を進めてまいります。

# I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

(令和5年度：8百万円、令和4年度：11百万円)

## 1 学術奨励事業

### (1) 木原記念財団学術賞【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っており、今後のさらなる発展が期待できる研究者（満50歳以下）について、学会、大学、公的研究機関、過去の受賞者に推薦を依頼し、応募者の中から選考の上、最も優れた研究者に「第32回木原記念財団学術賞」を授与します。

令和5年度に完成した30周年記念誌を引き続き活用し、プレゼンス向上に資するような情報発信等を継続して実施します。

#### 【実施予定】

- ・募集期間：令和5年6月～9月
- ・選考：選考委員による選定
- ・授賞式等：令和6年6月

## 2 知識普及啓発事業【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

### (1) 木原記念こども科学賞

長期的な視点に立って神奈川県内の小・中学生の科学の芽を育むため、作品を募集・選考し、小学校低学年・高学年・中学校の各部門において優れた作品を第31回「木原記念こども科学賞」として表彰します。

#### 【実施予定】

- ・募集期間：令和5年7月～9月
- ・選考：選考委員により、各部門最優秀賞、優秀賞、努力賞等選定
- ・表彰式：令和5年12月

## 3 情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信します。

また、一般市民にも財団の活動を周知できるよう、広報活動の拡大に努めます。

## II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

(令和5年度：57百万円、令和4年度：17百万円)

### 1 共同研究【区分：技術開発・研究開発、講座・セミナー・育成、相談・助言】

#### (1) 共同研究開発の創出・推進

神奈川県域に立地する生命科学分野の中小企業・スタートアップや大学・研究機関等が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援します。

また、研究開発を推進するため、国等の公的助成金を活用したプロジェクトの創出に取り組みます。

令和4年度10月に経済産業省関東経済産業局の補助事業「令和4年度 成長型中小企業等研究開発支援事業」に採択され、令和4年12月から事業を開始しました。令和5年度も事業管理機関として研究の支援を継続して行います。

研究テーマ：血漿の金属元素測定による認知症及び血液がんリスク診断技術の開発  
補助金交付申請額：40,097,433円（内、間接補助金額 38,277,433円）

#### (2) 大学・研究機関の研究・産学連携支援

神奈川県域に立地する生命科学分野の大学・研究機関等の研究・産学連携を支援します。令和5年度は横浜市立大学の研究支援・産学連携支援 URA 業務を受託し、当該大学の研究資金の獲得・成果の社会展開・プロジェクト管理等を行います。

### 2 研究開発等助成事業【区分：助成（応募型）】

#### (1) LIP. 横浜トライアル助成事業

中小企業・スタートアップや大学・研究機関等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成します。

【名称】 LIP. 横浜トライアル助成事業

【助成率・助成限度額・助成件数】 10/10 以内

中小企業・スタートアップ等 200万円/4件、大学・研究機関等 100万円/5件程度

### Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援事業

(令和5年度：42百万円、令和4年度：42百万円)

#### 1 事業化支援【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

横浜市補助事業として、横浜市内の中小企業・スタートアップ等に対する以下のよう  
な支援を通じ、健康・医療分野の産業の活性化を図ります。

##### (1) LIP. YOKOHAMA BIBLIOの運営

研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネット  
ワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す拠点、「LIP. YOKOHAMA BIBLIO」  
を関内地区の YOXO BOX OFFICE 内にて引き続き運営します。

当該拠点において、コーディネータ等の専門家による相談体制を整備し、中小企業・  
スタートアップ、大学研究機関等からの様々な相談に応じます。

知識集積型の相談拠点として、中小企業・スタートアップ、大学研究機関等が市場  
調査資料や専門書を閲覧できるように、健康・医療分野の文献、雑誌、市場調査デー  
タ等の配架、調査レポートの作成を行います。

横浜市内中小企業・スタートアップ等の最先端の技術を紹介し、技術連携・企業の  
研究開発および戦略立案・人材育成など幅広いテーマのセミナー等を開催します。

##### (2) マッチング機会の創出

7回目となる、生命科学分野において新規ビジネス等を検討する異分野大手企業と  
中小企業・スタートアップ等との交流機会「クロスイノベーションカンファレンス」  
を設け、横浜市内中小企業・スタートアップ等および大学研究機関等が外部と連携し、  
研究開発、事業化を進めるためのマッチングを支援します。

過去6回の開催で参加した50社の異分野大手企業と構築したネットワークに加え、  
新たな異分野大手企業を発掘することで、新たな連携開始のための機会を創出します。

##### (3) LIP. 横浜トライアル助成事業【区分：助成（応募型）】（再掲）

中小企業・スタートアップや大学・研究機関等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化  
に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成しま  
す。

【助成率・助成限度額・助成件数】10/10 以内

中小企業・スタートアップ等 200 万円/4 件、大学・研究機関等 100 万円/5 件程度

#### (4) ヘルスケア関連事業

中小企業・スタートアップ等にヘルスケア関連分野の産業動向や学術的な情報を提供し、同分野への新規参入、ビジネス機会の創出及び研究開発の事業化を支援します。

また、ヘルスケア関連分野の中でもデジタル技術を活用したデジタルヘルスケアに着目し、当該産業の活性化を目指します。令和3年度に構築したデジタルヘルスケアサポート体制の充実、IT企業等のヘルスケア産業への参入支援等を行います。

#### (5) 個別支援等

中小企業・スタートアップ等への個別訪問・ヒアリング等により、生命科学分野で事業を行う際の課題に応じた助言、コーディネータ等の専門家相談対応、外部機関とのマッチング、必要に応じたプロジェクト組成と伴走、助成金獲得等の個別支援を実施します。

## 2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）【区分：その他】

### (1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する情報発信等を行います。

### (2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営

中小企業・スタートアップ等、大学、金融機関等の連携体であるBVAの中核機関として事務局機能を担い、会員間の交流促進や研究開発助成に係る公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなどの支援を行います。令和5年度は特に、外部機関との連携推進に向けたプログラム（バイオインターフェース）や研究会（創薬研究会、ヘルスケア研究会等）の充実に注力します。

## 3 出展支援・広報【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言、講座・セミナー・育成】

※横浜市からの受託が決定することを停止条件とします。

横浜市からの受託事業として、以下のような支援を通じ、横浜市内の中小企業・スタートアップ等の技術や製品を国内外にアピールし、技術連携やビジネスの創出につなげます。

### (1) バイオジャパン2023出展支援

横浜市、川崎市と連携してバイオジャパン2023内にパビリオンを設け、域内に立地する中小企業・スタートアップ等の出展や販路拡大を支援します。

## (2) 社内展示会の開催

LIP. 横浜協力機関のニーズに合致した製品や技術を持つ会員企業が、協力機関社内でプレゼンテーション・製品発表を行う「社内展示会」を開催することで、中小企業・スタートアップ等の技術連携やビジネス創出の機会を増やします。

## (3) 自主イベントの開催

寄附と財団自主財源による、スタートアップや研究開発支援もしくは、数年後に実施される大型イベントの準備に資する情報発信プログラム実施します。

## 4 クラスター連携【区分：その他】

### (1) クラスター連携

バイオ産業支援機関ネットワーク会議の事務局として地域のクラスターを支援する公的機関、研究機関等と定期的に交流を行い、各地域の支援内容や成功事例等を共有するとともに、地域の枠を越えた共同研究・事業連携等の創出に取り組みます。

## **IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営**（令和5年度：178百万円、令和4年度：130万円）

### 1 横浜バイオ産業センター（YBIC）事業【区分：施設の貸与】

バイオ産業集積の拠点となる横浜バイオ産業センター（YBIC）の運営を通じ、研究開発の場を提供（賃貸）し、また、研究開発や事業化に係る各種情報を随時提供することにより、中小企業・スタートアップ、大学・研究機関等を支援します。

運営にあたっては、消防訓練、感染症対策などを実施するとともに、監視盤の交換等、長期修繕計画に基づく計画的な修繕を実施し、安全性の高い研究環境を提供します。また、退去等の機会をとらえ、照明のLED化を進めるなど、脱炭素にも貢献した施設の維持管理を図ります。